

ほっかいっぱいみさきっ子



御前崎市立御前崎小学校 学校だより 令和2年度 9月号

息子から、上級生が優しくしてくれたという話を何度も聞いております。

- ・入学したての頃、帰り道が同じ方向の上級生が家の前まで送ってくれたよ
- ・帰りに雨が降ってきて傘に入らせてくれたよ

など、本当にほっこりだなあと思うことを息子がたくさん話してくれます。
優しい子どもたちがたくさんいる小学校に通わせることができてうれしいです。

これは、1年生の保護者から、学校評価に寄せられた声です。地域・家庭・そして「ほっこり」が育んだ子どもたちの優しさを受け止めてくださっていることを本当にありがたく思いました。学校評価については、改めて学校だより臨時号でご報告いたします。



◆優しさを育むものの一つには…

9月16日(水)保護監視員の高田様をお迎えし、子ガメの受入れ式を行いました。

タベ、真夜中に生まれたばかりの20頭の子ガメたちが、今年も御前崎小にやってきたのです。子ガメはこうらの長さわずか4cm。本当に小さい小さい命です。

タライをのぞく子どもたちからは、「ちいさい!」「かわいいね」などの声が聞こえてきました。

いただいた3分の「校長先生から」という時間で、私が子どもたちに伝えたのは次のことです。

～前略～

朝晩の涼しさを感じたことがありますか?(たくさんの子が手をあげてくれました) このグラフのように、これから海水温がどんどん下がっていきます。7月に生まれた子ガメは、もうこれくらいの大きさになっているので、自分でエサもとれるでしょう。でも、タベ生まれた子ガメはまだこんなに小さいのです。そのまま放流しても、寒くなっていく海の中でエサを見つけ、生き残っていくのは難しいでしょう。だから、御小で一生懸命お世話をし、大きくなってから放流することはとても意義のある、尊い活動です。

～後略～

重さ20gで迎えた子ガメが、7月の放流時には、1200gにまで成長します。毎日お世話をする5年生児童はもちろんですが、休日のカメ当番につきそってくださる該当学年保護者のみなさま、シラスを寄付してくださる方、助言をしてくださるカメ専門家の小林先生やホワイトハウスさん、週に数回海水を汲みに行く職員、毎日カメ小屋に足を運ぶ5年生職員など、本当にたくさんの方々の手で、この命は守られています。昭和52年から続くこの活動が、本校の子どもたちの優しさ、温かさを育てています。

改めて、関係のみなさまに心より感謝申し上げます。そして7月の放流までどうぞよろしくお願いいたします。(校長 仁平美和子)



昼休みに草取りをする6年生